山口県病院協会会

- ●発行日 令和3年10月1日 ●発行所 一般社団法人山口県病院協会 〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- ●発行人 三浦 修 ●印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp ホームページ http://www.yha.or.jp



医療法人樹一会 山口病院

〒753−0048

住 所 山口市駅通り2丁目10-7

電 話 083-922-1191

FAX 083-922-1192

URL: http://www.yamaguchibyouin.jp/

CONTENTS(目次)

会員病院紹介······	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4ページ
医療懇話会報告	5ページ
部会コーナー	6ページ
諸会議報告	7ページ
お知らせコーナー 7~	8ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



医療法人樹一会 山口病院 病院長 山口 尚敬

当院は、昭和21年に初代院長山口一(はじめ)が山口外科医院として、山口市駅通りに開院し、昭和27年に内科を併設し山口病院となりました。昭和63年、山口一紘が2代目院長に就任し、平成6年には、医療法人化し「医療法人樹一会」が発足しました。樹一会には、山口一(はじめ)が、当地に植えた医療の種が、地域のみなさまに支えられ大樹に育ち、地域のみなさまが病める時に安心して大樹を頼り治療できるようにという想いを込め命名されました。

時代のニーズに沿って、結核病床は療養病床となり、総合健診センター、デイサービス、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などを併設していきました。令和元年、山口尚敬が3代目院長を承継し現在に至ります。

近年は、人間ドックフロアを増築して快適な検診を実現し、定期検診と病気の早期 発見に力を入れています。また、地域住民の高齢化への対応として、介護保険の通所

サービスを充実させてきています。総合的なデイサービス、認知症対応向けの地域密着型デイサービス、フレイル・サルコペニア予防目的の通所リハビリテーション、リハビリ室併設の通所リハビリ1時間コースなどニーズ に合わせたサービスを提供できるようになりました。

これからも地域の皆さまに貢献できるよう、そして樹一会の木が安定的に成長するよう精進してまいります。コロナ禍で大変な日々が続きますが、今後ともよろしくお願いいたします。

〈病院の現状〉

1) 概要

名 称 医療法人樹一会 山口病院

開設者 理事長 山口一紘

所在地 山口県山口市駅通り2丁目10番7号

T E L 083-922-1191

FAX 083-922-1168

URL http://www.yamaguchibyouin.jp/

病床数 79床 (医療療養病床61床 介護療養病床18床)

診療科 外科、整形外科、リハビリテーション科、肛門科、内科、 胃腸科、呼吸器科、循環器科、放射線科、皮膚科、泌尿 器科

2) 沿革

昭和21年6月 山口外科 開設

昭和27年7月 山口病院 改組

平成6年9月 樹一会 山口病院に法人化

平成10年6月 療養型病床 全79床 設置

平成10年8月 総合健診センター 設置

平成12年4月 居宅介護支援事業所 開設

医療療養病床51床、介護療養病床28床に転換

平成14年8月 通所介護デイサービスセンター

こもれ日 開設

平成26年6月 在宅支援ビル 竣工

サービス付き高齢者向け住宅『安心の家 映華』

開設

脳活性化デイサービス『ポインセチア』 開設

平成29年2月 通所リハビリテーション 開設

令和2年4月 検査・健診ドックフロア リニューアル

令和3年7月 医療療養病床61床、介護療養病床18床に転換

3)特徵

山口病院は「地域の皆様が安心・信頼して利用していただける かかりつけ病院」を理念とし、開設時と変わらない「こころ」を 大切にした医療をすすめております。

時代とともに医療に関わる問題も多様化し、病院に求められるご要望も変化してきております。それらにお応えできるよう、新たな医療機器の導入、医療・看護・介護スタッフのチームケアの整備、更には地域の病医院との連携を図り、患者様やそのご家族の笑顔のために、日々精進しております。

協会役員コーナー

発達障害児(者)診療へのきっかけ



一般社団法人岩国市医師会 岩国市医療センター医師会病院 病院長 茶川 治樹

私は、医師会病院に勤務する前は、岩国保健所の所長をしていました。保健所には 障害をもった子どもたちの相談が多くあります。障害児のための福祉サービスにはど のような制度があるかの問い合わせが多いのですが、次に多かったのが「広島市内(ま たは周南市内)の療育機関に定期的に通っているが、もっと近くに訓練施設はないか」 というものでした。

そのような中、医師会病院にリハビリ施設が開設されることが決まりました。私は総合病院では小児科医として勤務していた時期もあり、新しくできるリハビリ施設で障害児の療育に取り組んでみたいとの思いが募り、医師会病院にお世話になることにしました。

しかし、岩国市医師会には新たに療育施設を開設する資金がないため、障害児の保護者と連携して、岩国市に対して資金援助のお願いをしました。その熱意が市長に伝わり、岩国市療育センターを開設することができました。私自身は発達障害を中心とした障害児の診療は初めてでしたので、障害児療育施設へ定期的に通い経験を積んでいきました。

発達障害児は、子どもの $5\sim6$ %に認めると言われており、岩国市に当てはめると幼児から高校生まで $800\sim900$ 人程度いることになります。実際に 1 年間の初診の患者さんは200人に及び、現在定期的に通院している小児は実数で800人を超えます。最近は、成人の発達障害者の受診も増え、成人を診る医療機関が少ないため、今後さらに受診患者が増加することが予想されます。発達障害の特性を多くの市民が理解し、地域で支えていく体制が構築されることを願っています。

雑感



医療法人社団向陽会 阿知須同仁病院 理事長 西田 一也

ますます複雑な心境です。院内感染対策からワクチン接種が、われわれに託された 使命と位置づけ、協力してくれる職員を守りながら、対応してきたつもりです。みん なして支え合うものではないのでしょうか。社会的集団免疫の獲得を急いではいけな いのでしょうか。SF小説を超えているとも表現されてしまいます。

ダメージコントロール五輪などと揶揄されていた東京オリンピック2020は、選手の活躍で期待通りの感動を残して閉幕しました。個人的には、ソフトボールや野球の金メダル獲得や、山口市出身の大野将平選手や石川佳純選手のパフォーマンスを充分に堪能しました。雑音や不安材料に動じることなく準備された、本人の努力とチームのバックアップの賜物だと思います。但し、専門家や世間の心配に平行するように、感染患者数が増加してしまいました。

今年6月に開催された、県医師会勤務医部会特別講演会に参加しました。新しい医療安全の展開、Safety-IIにおいて説明されたレジリエンス・エンジニアリング理論では、うまく行っていることへの着目、これを今こそ活かせと心に言い聞かせております。対応する、モニターする、想定する、学習する――能力を備えるべくの毎日でしょうか。われわれが関係するのは、ガチガチで単純な「複雑系システム」とは異なり、人間という生き物を、生き物のようなシステムの中で、まずは人間のチーミングで支えていくものなのかと漠然と感じた次第です。

病院スタッフコーナー

FRAXを用いた骨折予防の取り組み



周南市立新南陽市民病院 中央部次長兼放射線室長 放射線技師

蔵永 紀靖

FRAX(fracture risk assessment tool)は、WHO(世界保健機関)が開発した骨折リスク評価ツールで、12の問診項目を入力することにより、今後10年間の骨折リスクを予測することができます。

当院では、2019年1月から放射線室スタッフがFRAXの対象となる入院患者さんに対して骨折リスク評価を行っています。

その方法ですが、まず、年齢や患者さんの状況から対象と思われる入院患者さんを抽出して問診票を作成します。そして、患者さんへの聞き取りが可能な時間帯に問診を取りに行きます。その際、骨折予防に関心をもってもらうため、"骨粗鬆症の説明"と、"いい骨をつくるために必要なこと"をまとめた資料もお渡ししています。

骨折リスクは、Web上のFRAXに問診項目を入力することで算出されます。その結果については、骨折リスクが15%未満の場合は、放射線室スタッフが患者さんに直接お渡しします。骨折リスクが15%以上の場合は、骨粗鬆症疑いとして主治医が説明し

ます。その際、さらなる検査が必要と思われる患者さんには、DEXAをお薦めします。

DEXA(Dual Energy X-ray Absorptiometry「二重エネルギーX線吸収測定法」)を行って骨密度がYAM(Young Adult Mean「若年成人平均値」)の70%以下だった患者さんは、骨粗鬆症と診断されます。その場合は、診療科を問わず主治医が当院の治療推奨マニュアルに沿って投薬治療を開始します。治療にあたっては、骨粗鬆症マネージャーが治療内容や経過について確認しファイルメーカーに記録していきます。また、放射線室では、FRAXを含めた一連のデータや患者さんの骨折情報などをファイルメーカーに記録していきます。そして、これらの内容はデータベース化し関係するスタッフで共有しています。

現在、FRAXで骨粗鬆症疑いと判断された患者さんの内DEXAが施行されるのは3割程度ですが、今後も骨粗 鬆症の早期発見と早期治療のために、この取り組みを続けていこうと思っております。

「知・好・楽」を大切に



セントヒル病院 副院長兼看護部長 宇都宮 淑子

新型コロナウイルス感染症は未だ終息することなく変異し5波といわれる状況となりました。デルタ株はこれまでのとは別物というくらい強い感染力を持っていると言われていますが、取るべき基本的な感染対策と換気をこれまで以上に徹底していきたいと思います。

密にならない人との繋がりは、それまでとは違う距離感へと変わり、生活、意識を 大きく変えましたが、自分自身が全てのことに対していかにうまく区切りを付けて対 応していくのか問われているように思います。

このような状況だからこそ「知・好・楽」を大切にしたいと思っています。「知・好・楽」とは、「これを知る者は、これを好む者に如かず、これを好む者は、これを楽しむ者に如かず」という論語の教えを一言で表したものです。仕事に例えると、その仕事を知っているだけの人は、仕事を好きな人にはかなわない。さらに好きなだけより、仕事を楽しんでいる人にはかなわない。自分自身がそのことに興味を持ち、掘り下げ、楽しむことで工夫も生まれるからでしょう。どの様な気持ちや姿勢で取り組むかで相

手への伝わり方もプロセスや結果も変わると思います。相手を大切にするには「自分を大切にする」こと。自分を大切にしている人は、相手を大切にすることの重要性を知っているので、自分だけでなく周りの人も大事にできると思います。

自分自身もうまく区切りを付けながら、大切な一人ひとりの「人材」が、貴重な「人財」に成長できるよう、継続教育や日々の関わりの中で、応援していく職場であることを目指したいと思っています。

そして医療者が疲弊する前に終息する兆しが見えることを切に願います。

医療懇話会報告

令和3年8月27日(金)午後3時より、セントコア山口において令和3年度医療懇話会が開催された。山口県健康福祉部から弘田隆彦部長ほか12名、山口県病院協会から三浦会長ほか18名が出席した。

三浦会長の挨拶に続いて、弘田部長より挨拶がなされた。続いて、健康福祉部の各課長から令和3年度の山口県健康福祉部の事業概要についての説明および新型コロナウイルス感染症発生状況が報告された。

次に、事前に提出された以下の質問事項のそれぞれに、県担当課長より回答がなされた。

1. 今後の山口県における新型コロナウイルス感染症患者診療体制の見込みについて

変異ウイルスによる病態などまだ不透明であり、引き続き十分な診療体制の確保が必要と思われる。在宅療養・ 宿泊療養中であってもきめ細かいモニタリングを実施し、個々の状態の変化に応じ迅速に治療体制に移行を可能 にする必要があるが、どのように患者情報共有システムを活用し、限られた医療資源を有効に活用していく見込 みか。

2. 新型コロナウイルス感染症に関わる医療費の公費負担の申請手続きについて

療養費の支給申請書は保健所または医療機関の代行作成が可能とはなっているものの、関係書類等を患者本人 以外が取得することは容易ではないため、患者本人の支給申請に依存するところが大きく、未収金が増加する要 因となっている。どのような対応が考えられるか。

3. 救急病院間の連携の円滑化について

コロナ禍により、病院間での協議会等の機会が減ってしまった。一次・二次・三次救急病院間の連携不足により、バックアップ体制の構築が不十分ではないか不安がある。県として、それらの連携をスムーズに図るための施策はあるか。あるいは、県や市町が地域ごとの協議会等を開催することは可能か。

上記のほか、今年度事業概要についてや、新型コロナウイルス感染症に関して現在の県の体制や今後の仕組み作り、計画に関して様々な質問があがり、県担当課長より充分な説明がなされた。



三浦会長



弘田部長



懇話会風景



部会コーナー

令和3年度 山口県病院協会事務長部会 総会および第1回研修会

令和3年7月14日(水)、山口県総合保健会館第2研修室において、令和3年度山口県病院協会事務長部会総会および第1回研修会が、当協会で初めてのWeb併用にて開催された。会場参加は11名、Web参加は30病院から申し込みがあった。

【総 会】

議 案 事務長部会役員の改選について

任期満了に伴い、令和3年度山口県病院協会事務長部会役員は表の通りとなった。

部 会 長 嶋崎 隆郎(都志見病院 事務長)

副 部 会 長 橋本 雅徳 (周南記念病院 事務局長)

副 部 会 長 室田 義文(尾中病院 経営管理部長)

常 任 幹 事 西原 寛之(周東総合病院 事務長)

常 任 幹 事 門出 健二(小郡第一総合病院 事務長)

常 任 幹 事 石田 憲司(下関リハビリテーション病院 事務長)

【研修会】

演題 1 「iPhone・iPadの病院導入/活用事例紹介」

講 師 Appleヘルスケア本部

マネージャー 保坂 景 氏

演題 2 「医療分野におけるドコモの働き方改革&先進 5 Gソリューションのご紹介」

講師 株式会社NTTドコモ法人ビジネス本部5G・IoTビジネス部

ビジネスデザイン 第二

担当課長 久保田 真司 氏、 剱吉 昌樹 氏

《研修後に質疑応答》

今回の研修会は、株式会社ドコモCS中国の協力を得てのWeb併用、講師も会場とオンラインでつなぐ形式で行った。

保坂氏は、やがてサービスが終了するPHSの後継機としてスマートフォンの採用が増えているとし、通話ツー

ルとしてだけでなく、音声による電子カルテ入力補助や、センサーと連動した勤怠管理補助など、全国の病院における様々な 導入事例について紹介した。

久保田氏と剱吉氏は、実際に医療機関でのスマートフォン導入を行ってきた立場から、様々な機能やサービスについて解説。また、遠隔診療や訪問診療支援といった 5 G活用事例についても説明した。

医療現場におけるDX推進の一助として、スマートフォンが どのように利用されているか理解を深めることのできる研修会 となった。



研修会風景

諸会議報告

令和3年度 第2回理事会

【書面開催】

【承認事項】

- 1. 日本医療マネジメント学会 第20回山口県支部 学術集会後援のお願いについて
- 2. 令和3年度山口県肝疾患コーディネーター養成 講習会への後援依頼について

【協議事項】

- 1. 諸行事の実行状況と今後の運営について
- 2. 冬季医療経営講習会について
- 3. 第26回四県病院協会連絡協議会について
- 4. 令和4年度定時総会時の特別公演について

【報告事項】

- 1. 令和4年度定時総会の開催日について
- 2. 県行政委員等の推薦について
 - ·山口県医療対策協議会専門委員 副会長 神徳 眞也 (再任)
 - ·山口県医療費適正化推進協議会 副会長 馬場 良和 (再任)

3. 県各種委員会等の結果報告について 三浦会長

・第3回新型コロナワクチン接種対策会議

(6月17日)

神德副会長

- ・山口県循環器病対策推進協議会 (6月10日)
- ·山口県循環器病対策推進協議会 第1回心疾 患部会 (8月12日)
- ·山口県医療対策協議会 専門医制度部会

(8月26日)

林常任理事

・令和3年度山口県がん対策協議会

(5月31日)

4. その他

令和3年度 第2回情報管理委員会

【書面開催】

【協議事項】

- 1. 10月号の発行について
- 2. 新年号の発行準備について
- 3. その他



お知らせコーナー

日本医療マネジメント学会 第20回山口県支部学術集会

日 時 令和3年11月13日(土) 13:00~17:00

会 場 山口県立総合医療センター (防府市大字大崎10077番地)

テーマ 「地方における医療・介護の将来を考える」

一般演題発表、シンポジウム、特別講演、クリティカルパス展示など

参加 山口県内の保健・医療・福祉関係者

会 費 学会会員:1,500円 学会非会員:2,000円 学生:500円

【お問い合わせ先】山口県立総合医療センター 大会実行事務局:中元 電話0835-22-4411

お知らせコーナー

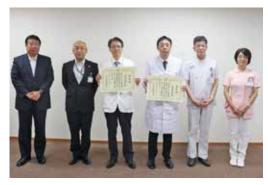
山口県救急医療功労者知事表彰(山口県病院協会推薦)

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、 次の病院に決定し、9月29日 徳山中央病院において伝達されました。

おめでとうございます。

徳山中央病院 (病院長 沼 文隆)





会員等の異動

会員の変更 変更後 変更前

・岩国市立美和病院病院長宗像はながな (360)
宗像病院長病院長病院長方の点病院長片山寛之・みちがみ病院病院長多久島康司病院長上田一博・宇部第一病院理事長東光生理事長江嶋清行

病院協会の主な行事予定

○11月12日第3回理事会(会場:セントコア山口)○12月10日第3回情報管理委員会(会場:山口県総合保健会館)○1月9日新年互礼会(会場:ホテルニュータナカ)

○1月28日 四県病院協会連絡協議会 (会場:広島県)
○1月 第4回理事会 (会場:未定)
○3月 第5回理事会 (会場:未定)
○3月 第4回情報管理委員会 (会場:未定)

編集後記 新型コロナウイルス感染第5波のピークは越えましたが、終息はまだ見えない状況です。10月号では、特に医療談話会と事務長部会報告が目を引きました◆医療懇話会報告は、山口県健康福祉部との談話で特に新型コロナウイルス感染症患者診療体制の見込みに高い関心がありました。第5波では比較的若い方の感染が多く、在宅療法・宿泊療養が増えましたが、きめ細かいモニタリングをして重症度に応じた治療を行うと説明がありました。山口県のワクチン接種率は全国でもトップレベルとの報告、接種が進んでいない自治体には申し訳ないですが、県人として心強い思いでした◆事務長部会コーナーでは、サービスが終了するPHS後継機として、スマートホンの遠隔診療や訪問診療支援などの活用、音声による電子カルテ入力補助、勤怠管理補助の導入の話など、医療現場におけるDX推進の興味ある話でした。 (清水 昭彦)